

地図の見かた・使いかた

①地図上で住んでいる場所と予想される浸水の深さを確認しましょう

このハザードマップには、予想される浸水の範囲と深さがランク別に色分けされています。自分の住んでいる場所は浸水の危険があるのか、予想される浸水の深さはどれくらいになるのかを確認しましょう。

ただし、浸水の予想は河川ごとに想定している雨の量や降り方があるので、それ以外の雨により浸水が起きた場合は、このとおりにはならないことがあります。



②避難場所を確認しましょう

1 ページの索引図で、大まかな位置を確認したら、詳細地図のページを開いて自分の家を確認しましょう。地図上でお近くの避難場所をいくつか探して場所を確認しましょう。10 ページの避難場所一覧から探すこともできます。



③避難経路を考えてみましょう



ハザードマップで自分が住んでいる場所から避難場所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。地図上での確認が済んだら、実際に避難場所まで歩いてみましょう。

安全で歩きやすい道を選び、避難場所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④家族や周辺住民と情報を共有しましょう

ハザードマップは家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。



本書の使い方

本書は、いずれ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めていきましょう。

本書の特徴

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常時は地図部分や「わが家の防災メモ」ページを開いた状態で、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

防災ガイド ハザードマップ

